

標準オフィスソフトを Ms-Office から LibreOffice へ変更する理由

【移行の背景・理由】

1. Microsoft Office 2003 の正式サポート終了を 2014 年 4 月にひかえ、多くの企業や組織で統合オフィスソフトの更新が検討されている。
2. 統合オフィスソフトは機能的に成熟期に入り、各ソフトウェア同士での機能差がなくなっている。
3. マイクロソフト Office 2007-2010 におけるユーザインターフェースやファイル形式の全面変更により、現在は、どのオフィスソフトを選択しても操作性とファイル形式の変更が伴う状況下となっている。したがって、操作性やファイルの互換性チェックについては全てのオフィスソフトで必須とされ、場合によっては今までのファイルを破棄し、新規にファイルを再作成しなければならない。
4. オフィスソフトで作成したファイルは貴重な情報資産であり、将来にわたって読み書きできるようにしておくことが要求される為、ファイル形式を含め、特定のソフトウェアに依存しコントロールされる状況から速やかに脱する必要がある。
5. OpenDocument Format(ODF)が国際標準化機構(ISO)と国際電気標準会議 (IEC)においても国際標準規格(ISO/IEC 26300)として、また 2010 年 2 月には ODF が日本工業規格 (JISX4401)としても認定され、共通のファイル形式として ODF の整備が進んだ。
6. 総務省の発表した「情報システムに係る政府調達の基本指針」で、オープンな標準 ODF と OOXML(Office Open XML File Formats)を優先する方針が掲げられた。

【具体的な導入理由と目的】

1. 経費削減
PC 導入に伴う経費の一つであり、導入台数に比例して上昇するオフィスソフトウェア費用を圧縮する。Ms-Office は1台単価で約 20,000~34,000 円程度が必要。
閲覧主体の PC にも費用投下が必要なのか?を検討し、必要な PC を選定する。
2. 文書の保存・保管の適正化
電子文書として多くの文書を適正にまた長期的に保管しておく必要がある場合を考慮すると、LibreOffice を採用することは国際標準規格の ODF(Open Document Format)ファイルフォーマットを採用することでもあり、業務文書の保存・保管の適正化につながる。
3. 利用者の利便性向上
「事業やサービスを提供する場合に、利用者が有料ソフトウェアを購入していることが前提となっているのはいかがなものか?」という点を考慮し、有料ソフトウェアだけでなく無料ソフトウェアでも利用可能な環境を整備・提供することはサービス提供者として必要な事項であると考え。
相互にファイルをやり取りできる環境を費用負担なく構築できることは、サービス提供上、大きなメリットとなる。
4. 多様なプラットフォームへの対応が可能
Windows だけでなく、Linux や Mac 等、様々な PC 環境でも対応可能なクロスプラットフォームのソフトである。
LibreOffice 稼働対応 OS:BSD, Linux, Mac OS X, UNIX, Windows
必要に応じて業務上、最適な OS を自由に選択することができるだけでなく、利用者の OS を特定しない為、多くの利用者へのサービス提供に繋げることが出来る。

LibreOffice 導入時の事前検討事項

LibreOffice は Ms-office で作成されたファイルを読み込み・表示することができますが、完全なクローンソフトでは無い点に注意する必要があります。

1. Microsoft Office とは完全互換ではないが業務利用可能なのか？
完全互換のソフトではない為、表のレイアウトや文書レイアウトが崩れて表示される場合があります
MS-Office 2003 で作成した文書を 2007 や 2010 で開くと、オブジェクト等を利用している文書で調整が必要な場合があるように、LibreOffice でもレイアウトの位置が大幅にズレるなどの事例を確認しています(特に Word で作成したチラシ類や表組)
互換性は、どの程度までの互換性を必要としているのか?によって問題となるかならないかが決まると考えており、「完全な互換性」はないとしても、「実用的な範囲での互換性」はあると判断しています。
2. 操作メニューが変更となる為、Ms-Office でできていた操作が分からなくなるのではないかと
まったく同じメニューというわけにはいきませんが、慣れてもらうしかありませんが
Office 2003 から 2007-2010 への移行に伴うユーザーインターフェイスの変更による利用者負担と Office2003 から LibreOffice へ移行する場合の利用者負担とを比較した場合、LibreOffice の方が負担を軽減できると判断しました。
メニューの配置などについては Office2010 よりも LibreOffice の方が Office2000 や 2003 と同様のメニューレイアウトを採用しているため、直感的にわかりやすいと考えています。
3. 最新の Office2010 よりも機能が劣るソフトの導入は、事務能力低下に繋がるのではないかと
現在、導入している Office2003 の機能は十分に持っているかと判断しました。
通常の事務ではオフィスソフトの基本的な機能を主に利用しているため、事務能力低下は発生しないと判断しています。
4. ソフトメーカー製ではない無料ソフトウェアを導入してサポート体制などが不安ではないかと
Open 系ソフトウェアはオープンソースとしてメーカーに依存せず、ソースコードが公開され、有志のボランティアによる開発やサポートが行われている点が逆に強みとなっています。
いつでも、だれでも、自分の技量に応じて開発やサポートに参加できるということであり、この事は 24 時間世界中のどこかで開発・サポートが続けられていることを意味し、迅速な修正対応が可能となる原動力となっています。
また、ユーザー同士でサポート情報を提供できる環境が整備されていますので必要な情報は入手できると判断しています。
5. ODF 形式になると外部とのやり取りの際に困る事例が発生するのではないかと
まったく発生しないとは思いますが、外部とのファイルのやり取りについて、印刷イメージで良いファイルは PDF 形式、データでは CSV 形式で行うことが慣例化しておりますので問題視していません。
どうしても Word や Excel などの Ms-Office の形式での受け渡しが必要な際には、Libreoffice を利用して Ms-Office 形式(doc 又は xls)で保存し対応したいと考えています。
Libreoffice は新 Office 形式(docx/xlsx)で保存可能なのですが、レイアウト崩れやオブジェクト非表示の問題が発生しますので doc・xls 形式での受け渡しを行いません。

6. Excel など VBA マクロを利用した処理がある場合に動作しないのではないかと？
Calc では VBA マクロの互換性が向上しており、「範囲指定して印刷」などの簡単なマクロは無修正でも動作することを確認しておりますが、外部向けデータ作成などの処理ルーチンでは動作中エラーになることも確認しております。
Calc で動作しないマクロを実行する必要がある場合には Office2010 がインストールされた PC を利用してもらうことにしています。
また簡単な印刷マクロや画面遷移マクロなどは Calc_Basic で再作成いたします。
7. タックシール印刷や宛名印刷などの定形フォーム利用時にエラーが発生するのではないかと？
ハガキ印刷やタックシール印刷でエラーが出る可能性は否定できません、エラー発生の可能性は Office2010 を利用した場合でも想定されますが、LibreOffice の方が高いと予想しています。
タックシール印字などの機能は LibreOffice でも持っていますが、対策として
- ① Office2010 がインストールされた端末で作業する方法
 - ② LibreOffice で再作成する方法(操作手順をマニュアル化済)
 - ③ Just システムのラベルマイティを使う方法(共用 PC にインストール予定)
- の 3 つを用意しています
8. いままで使っている関数がエラーになったり戻り値などが変化してしまうのではないかと？
普段利用するレベルの関数(If や Sum や vlookup 等)エラーは、テスト環境でも発生していません。
エラー把握済み関数や動作は以下のとおり
- Datediff 関数エラー(関数なし:Years・Months・Days などの代替関数で対応要)
 - Roundup 関数エラー(引数の桁数オーバー 小数点以下 22 桁を 21 桁に修正で対応可能)
 - セル結合した範囲を集計する場合に、結合前のセルに入力されていた値まで集計する事例
 - Phonetic(フリガナ)関数は使えません
9. 外部とのファイルやり取りに PDF を利用するとのことだが、PDF 作成機能は付属しているのか？
Office2000 や Office2003 と違い、LibreOffice には標準でファイルを PDF 出力する機能が付属しています、通常の PDF ファイルの他にも様々なオプションを付けて PDF 化する機能があります。
10. マイクロソフト Access を利用したシステムを利用しているが、Base で利用できるのか？
LibreOffice に付属している BASE では Access で作成されたシステムを動作させることはできません。
Access でシステム構築運用している端末には Ms-Office2010Pro をインストールしますので Ms-Office2010 での利用となります。
11. 標準文書形式を ODF としていくという解釈でよいのか？
変更が不要なファイルは PDF・可変なファイルは ODF という形で保存していきます。
したがって現行の Word の doc 形式や Excel の xls 形式については徐々に減少することになります。
12. 掲示したりメールに添付された定型文書様式などでレイアウト崩れなどが発生するのではないかと？
定型文書様式についてレイアウトチェックと修正を実施します、また PC 移行後においては、送付前に LibreOffice でのレイアウトチェックを義務付ける指導を行います。

13. Office2010 がインストールされている端末でも LibreOffice を使わなければならないのか？
標準文書形式を ODF にしますので、LibreOffice 利用を原則とします
Ms-office で処理しなければならないファイル※について Ms-office を利用する運用は、例外運用扱いにて対応することとしています。 ※Ms-Office での運用を義務づけられ、レイアウト指定されたファイル等
14. Office2010 で新規に作成したファイルの保存形式は何か？
ODF を原則とします (OOXML 形式: docx や xlsx は不可とします) (取引先から xlsx や docx 形式での受け渡しを指定された場合は、この限りではありません)
15. 外部から Office2007 や 2010 の OOXML 形式 (docx や xlsx) で送付されてきたデータについての扱いはどうすればよいか？
OOXML 形式: docx や xlsx での保存を要求された場合、Libreoffice では不具合が発生します Office2010 がインストールされた端末で対応するようにします。
16. Calc の標準設定では印刷時にヘッダーとフッターにシート名とページが入るようになっている、これを入らないように設定できないのか？
標準でヘッダーとフッター無し (無しではなく独自設定することも可) に設定することは、個人の標準テンプレートを操作することで可能です
手順をマニュアル化します。
17. 標準フォントが少ないのでチラシなどを作成する時に該当するフォントが無い
チラシ等に使うポップ体などのフォントは Ms-office に付属していますので LibreOffice だけの環境では使用できません。
LibreOffice にあるフォントで作成しなおすか、Office2010 がインストールされた端末で作成するようにします。
18. LibreOffice のみインストールされている端末のフォントは見慣れないフォントだが
OS が変わってもレイアウトが崩れないようにするため、IPA フォントや T フォントなど特定 OS に依存しないクロスプラットフォームの無料フォントを可能な範囲内で搭載します。
IPA フォントや T フォントで作成した文書は Linux でも Mac でも共通のフォントさえインストールされていれば通常、レイアウトは崩れません。
19. Ms-office と比較してテンプレートやクリップアートなどの素材が少ない
標準状態での素材やテンプレートが少ないことは了解しています、インターネット上の指定サイトにはフリーの素材やテンプレートが多数登録されていますので該当 URL を調査しお知らせいたします。
20. 利用者教育や知識習得において、解説書の数が少ないことや指導インストラクターが居ないことのデメリットが発生するのではないか？
Office ソフトで利用する機能は基本的な事項が大部分であり、ソフト教育も「習うより慣れろ」方式が慣例化していますので、業務と同じソフトを自宅に個人負担無く導入でき操作練習できる点は大きなアドバンテージになると考えています。
解説書の数も増加していますし、必要な作業はマニュアル化していきます。
PC インストラクターによる教育指導は実施していないのでデメリットにはなりません。

Office ファイルの用途一覧 (doc・xls・mdb・ppt)

Office アプリ名	分類	特徴	ODF 化
Word	報告書	1～2 ページの書類	◎
	お知らせ	1～2 ページの書類	◎
	チラシ・パンフレット類	お絵かきソフトの代用作成	◎Draw
	提出用様式	手書きでの提出が多い	◎
	会議議事録など	統一様式での運用義務がある	◎
	ワープロ的文書	索引と目次などを自動設定	×

Excel	リスト等のデータ		◎
	実績表などの縦横集計表		◎
	表(グラフ有り)		◎
	常用関数を使った表		◎
	マクロの記録レベルの操作マクロシート	解読に一苦労	◎
	独自関数を作って利用しているシート	解読に一苦労	ほぼ◎
	マクロを駆使した一種のシステムシート	外部業者製が多い	×

Access	mdb で構築したシステム	フォームや Function 等の作り込みアリ	×
--------	---------------	-------------------------	---

PowerPoint	簡単なプレゼン資料	文字とオブジェクトのみ程度	◎
------------	-----------	---------------	---

使っているユーザーを分類してみると

【ファイル作成】

ユーザーレベル	特徴
レベル1: 修正すらよくできない	もっぱら閲覧専門で PC の操作が苦手
レベル2: 修正しかできないレベル	ちょっとした様式変更敏感、応用がきかない、ソフトの基本的な操作方法を我流でやっている
レベル3: 再作成できるレベル	弘法筆を選ばず、仕様、様式変更などにも臨機応変に対応できる応用力を持つ

【ファイル閲覧】 職位に関係している場合が多い

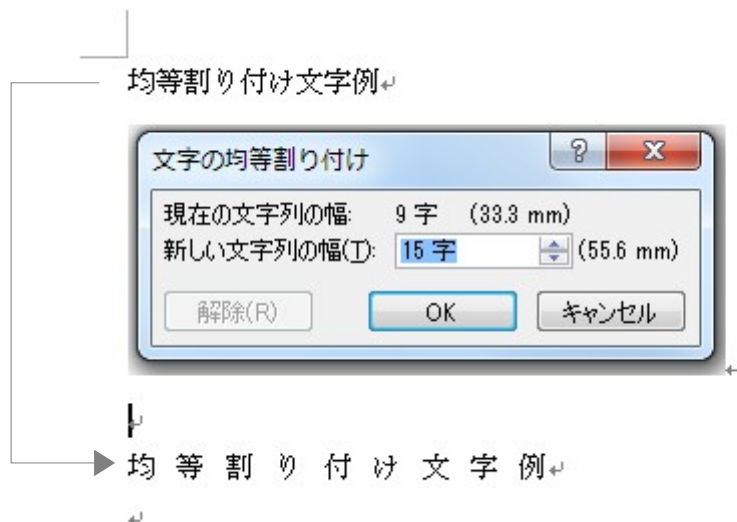
ユーザーレベル	特徴
レベル1: 作成しない (例: 役員・管理職など)	もっぱら閲覧・チェック・修正指示のみ
レベル2: 作成から修正まで (例: 新人～係長など)	閲覧・作成・修正をこなす(こなさなければならない)

クレーム関連

機能が無くクレームが来たもの

1. Writer: 文字数を指定した均等割り付けが無い (段落単位での均等割付機能はアリ)

Word2010 で9文字を15文字に均等割り付けした例



2. Writer: ページ罫線に絵を表示する設定が無い (ページ罫線事体は外枠で設定可能)
3. Calc: シート毎にグリッド線を消す、表示するという設定が無い
4. Writer: 囲み文字が Word のようにワンクリックで作成できない
5. Calc: ふりがな機能が無い PHONETIC 関数も使えません
6. フォントワークの縦書き時にワークがワ | クと表示される

フォントワーク → フォントワーク
ここが変! →

操作結果の違いでクレームが来たもの

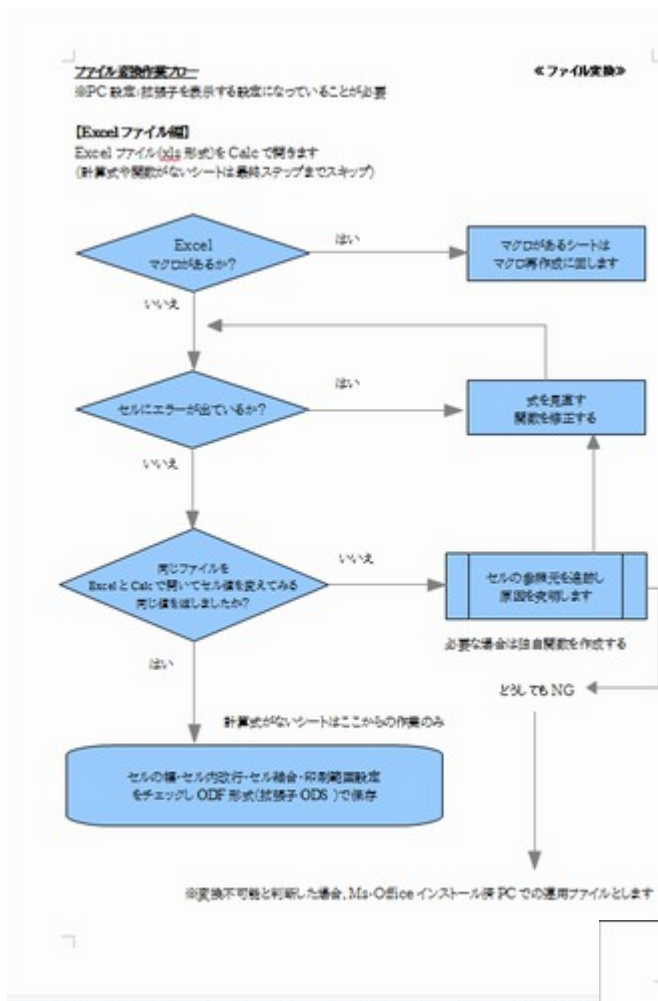
1. Calc: セルに設定したコメントが DEL キーで削除されてしまう
対応策: セルの入力規制「セル選択時にコメント表示」で代用
2. Calc: SUBTOTAL 関数が入った表でオートフィルタを利用すると、SUBTOTAL 関数が入ったセルまでフィルターがかかってしまう
3. Calc: Excel ファイルを読み込んだ場合、シート毎にスタイル設定が必要になるのは面倒
4. Calc: デフォルトでヘッダーとフッターが設定されているのは煩わしい
5. 直線や矢印などの線の色が標準ではグレーになっている、黒にしてほしい

その他

1. 3.5 からかもしれないが、稀に Excel ではきちんと開く xls ファイルを読み込んででもエラーとなり開けない事例が発生するようになった
2. CALC で修正して保存した VBA マクロ付きの xls ファイルを Excel2010 で開くとエラーになってしまう (Excel2003 ではエラーにならず正常に動作する)
3. doc 形式のファイルを開いて加筆・修正し保存したにもかかわらず、修正が保存反映されない
4. 登録された外字が表示されない (会津若松市の事例にて対応できます)

ファイル互換性検証資料（オブジェクト配置文書で検証）

① Writer で作成した odt ファイルを Writer で開いた



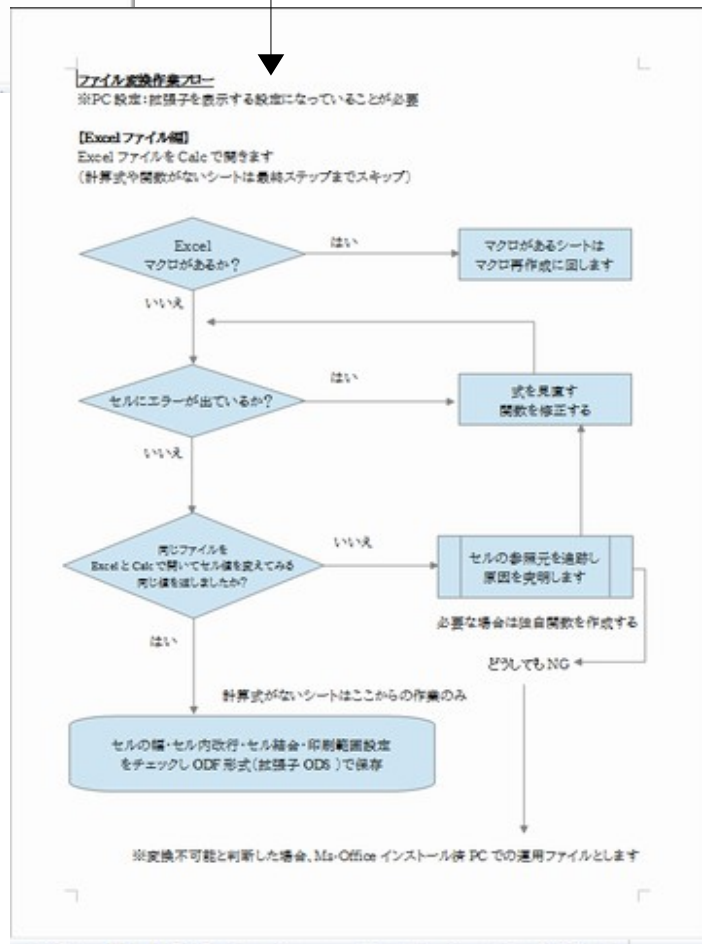
Writer で作成 odt で保存

作成: Writer で odt に
表示: Writer

① のファイルを Writer で doc 形式(97-2003)で保存し、Writer で開いた場合

作成: Writer で doc に
表示: Writer

Writer で作成した odt を doc に変更し
ても Writer で読めば、ほぼ崩れ無し



Office フォントとフリーフォント

代表的な Office フォント	対応できそうなフリーフォント
HG ゴシック E、HGP ゴシック E、HGS ゴシック E	IPA 梅 M+ MigMix
HG ゴシック M、HGP ゴシック M、HGS ゴシック M	
HG 明朝 B、HGP 明朝 B、HGS 明朝 B	
HG 明朝 E、HGP 明朝 E、HGS 明朝 E	
HG 行書体、HGP 行書体、HGS 行書体	衡山毛筆フォント
HG 教科書体、HGP 教科書体、HGS 教科書体	IPA
HG 創英角ゴシック UB、HGP 創英角ゴシック UB HGS 創英角ゴシック UB	} 該当フォント見当たらず
HG 創英角ポップ体、HGP 創英角ポップ体 HGS 創英角ポップ体	
HG 創英プレゼンス EB、HGP 創英プレゼンス EB HGS 創英プレゼンス EB	
HG 丸ゴシック M-Pro	
HG 正楷書体 PRO	HC 丸ゴシック Rounded M+
メイリオ、Meiryo UI	T フォント楷書体
メイリオ、Meiryo	

資料公開後：M+ フォントの Heavy/Black で代用できるのでは？との情報をいただきました

パイロット導入時に留意した点

業務：業務大分類で区分 例：営業・窓口・事務・管理など

人選：ソフトを使える人(使えない人ではテストになりません)・使える人にプロジェクト参加してもらい協力体制を構築する目的もある

期間：本番稼働予定日の2ヶ月前から約1ヶ月間

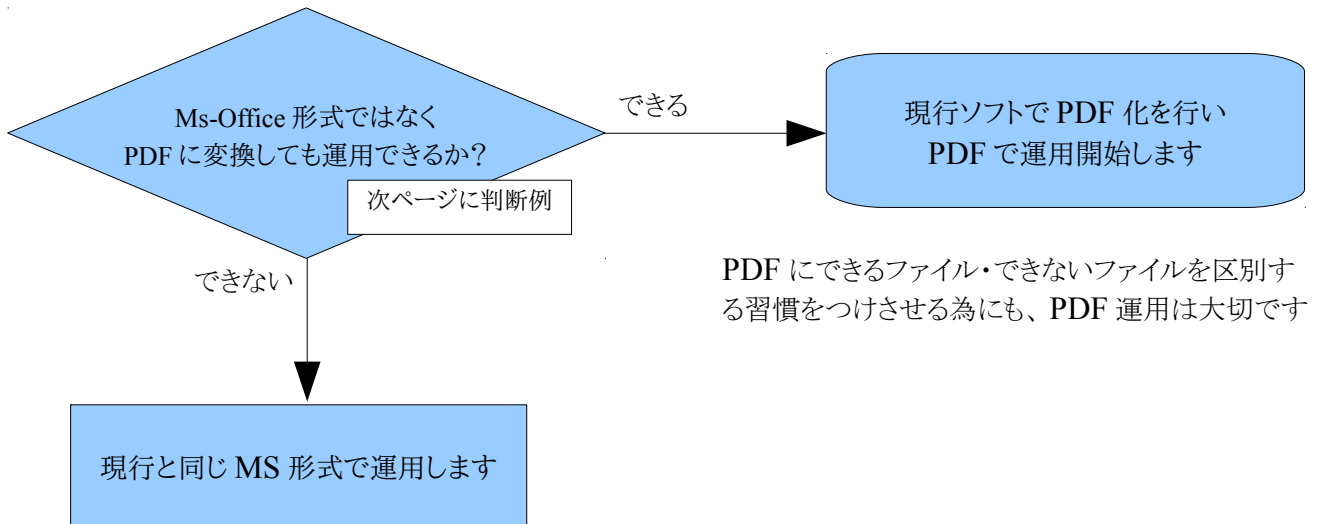
内容：通常業務を Libreoffice のみで過ごしてもらう

台数：各区分毎に1台ずつ(計7台で稼働)

【ファイル移行作業フロー】

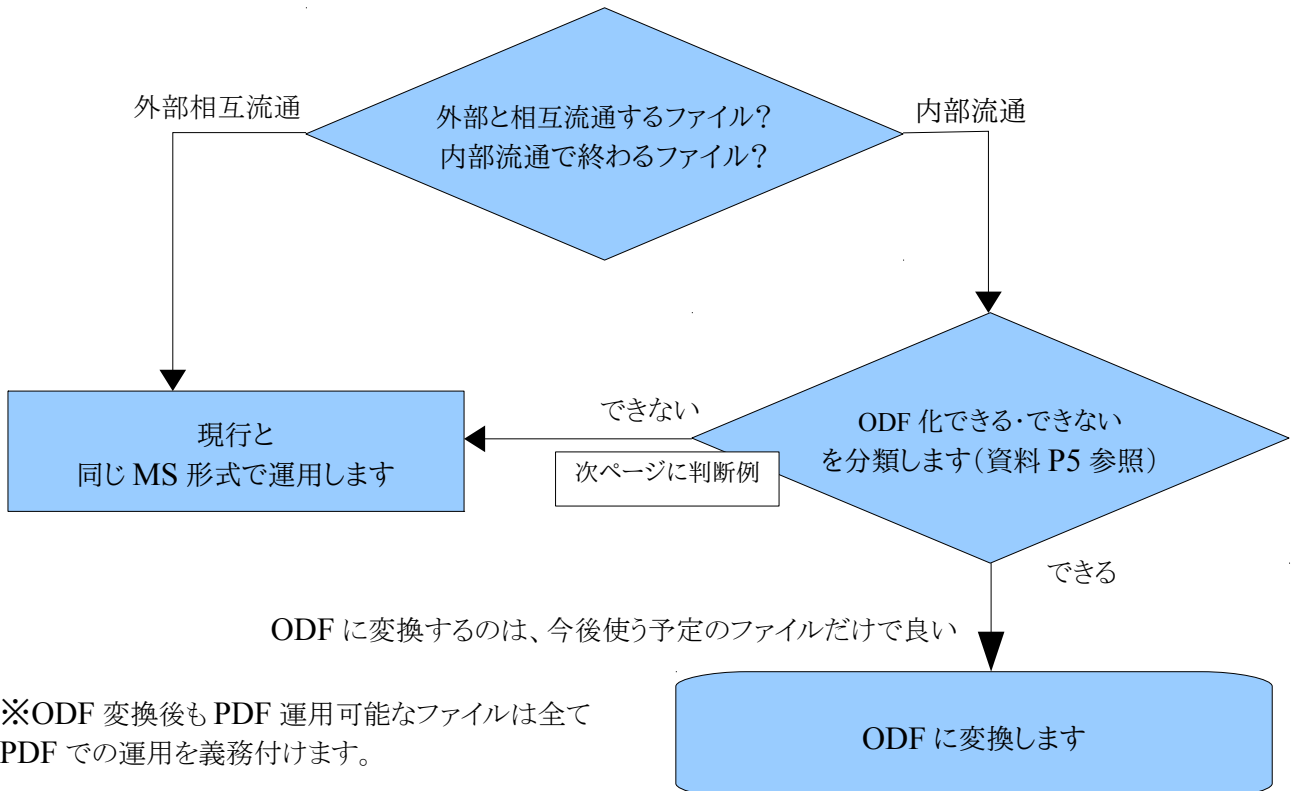
第一段階:まずは「PDF 化からスタート」

現行の Ms-Office に PDF 作成機能をプラスし、PDF で済むファイルは PDF で運用するように変更します



PDF での運用が安定した後

第二段階:利用している Ms-Office ファイルを分類します



※ODF 変換後も PDF 運用可能なファイルは全て PDF での運用を義務付けます。

《移行作業フローにおける判断例》

1. 【PDFに変換して運用できると判断した例】

- 基準: 配布先で閲覧と印刷ができれば良いファイル
 - ① doc: 通知文書類
 - ② doc: 手書き運用する各種様式類
 - ③ doc: 配布先で修正を必要としないチラシ類
 - ④ xls: 実績表・行事予定表など勝手に修正・再利用されては困る表
 - ⑤ xls: 配布先で再計算・再利用不要な表・リスト
 - ⑥ ppt: 配布先で修正不要な PowerPoint ファイル
 - ⑦ メール添付ファイル: 先方での加筆・修正不要なもの

2. 【PDFでは運用できないと判断した例】

- 基準: 配布先で入力・再利用が必要なファイル
 - ① doc: 入力・返信が必要な通知文書類
 - ② doc: 入力運用する各種様式類
 - ③ xls: 再利用目的の実績表データ・行事予定データなど
 - ④ xls: 配布先で再計算が必要な表
 - ⑤ ppt: 配布先で加筆・修正が必要な PowerPoint ファイル
 - ⑥ mdb: Access のファイル
 - ⑦ メール添付ファイル: 先方での加筆・修正が必要なもの

3. 【内部流通ファイルで ODF に変換できると判断した例】

P5 参照

- 基準: 多少の修正で読み・書き・印刷・計算ができるファイル
 - ① doc: 通知文書類・様式類などほとんどの内部文書
 - ② xls: データ・表などほとんどの内部ファイル

4. 【内部流通ファイルで ODF に変換できないと判断した例】

P5 参照

- 基準: 読み・書き・印刷・計算に多大な労力を要するファイル
 - ① doc: Word 固有の機能を使っている文書類
 - ② xls: マクロや独自関数が駆使されているファイル
 - ③ xls: 代用不可能な関数が利用されているファイル

Phonetic 等

5. 【内部流通ファイルで Ms-Office 運用が良いと判断した例】

LibreOffice3.44 導入時

- ① 1つのセル式内に 30 以上のファイルを参照リンクしている Excel ファイル(リンク先参照でエラーになる場合が確認された為)
- ② ODF に変更できないファイルを参照リンクしている Excel ファイル(リンク先参照では相手も ODF でなければエラーになる場合が確認された為) 例: 参照先が外部流通する xls ファイル

ファイル変換作業フロー

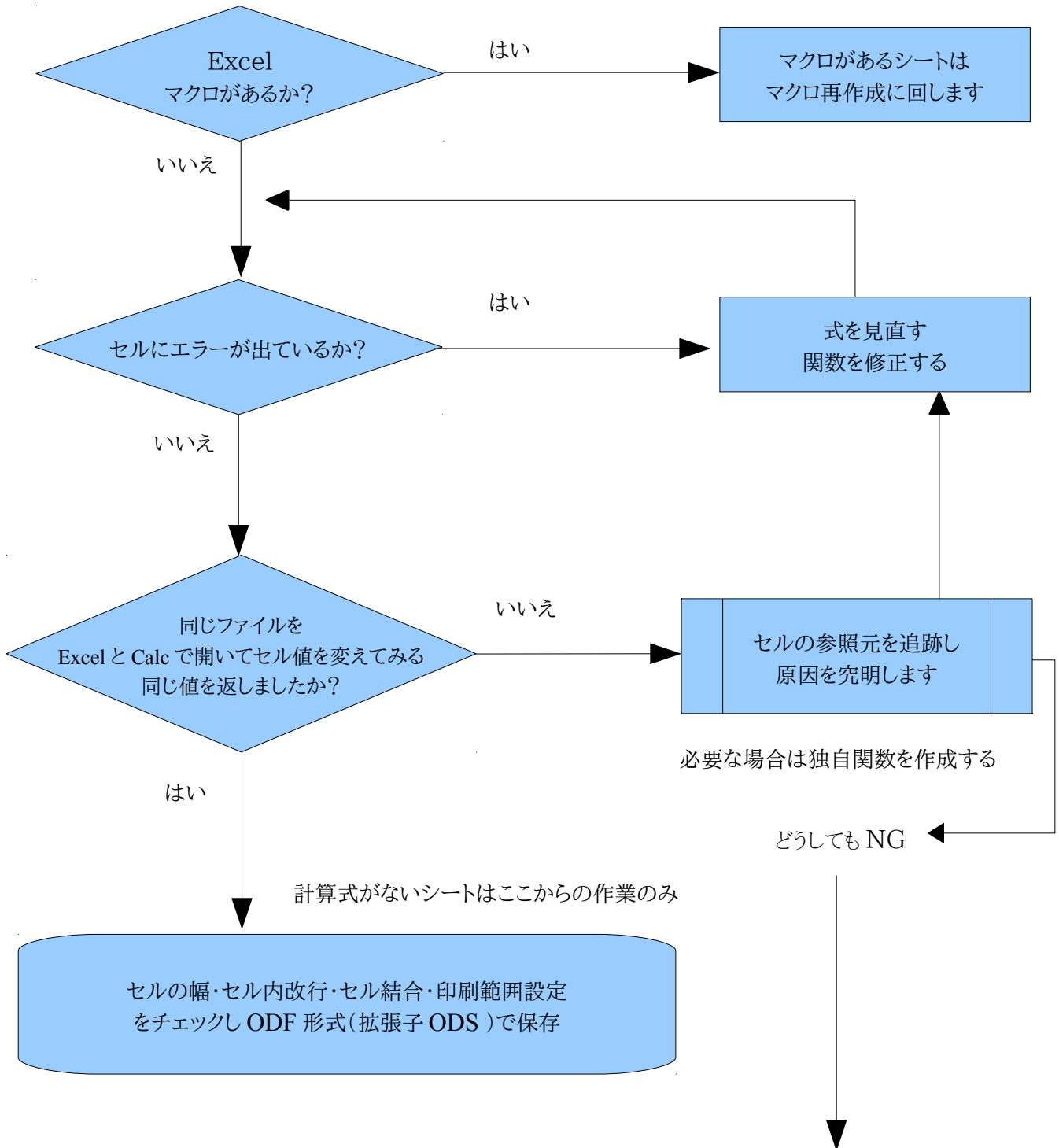
※PC 設定: 拡張子を表示する設定になっていることが必要

《ファイル変換》

参照: 「LibreOffice」利用マニュアル

【Excel ファイル編】

Excel ファイル(xls 形式)を Calc で開きます、xlsx は Excel で一旦 xls 形式に変更します
(計算式や関数がないシートは最終ステップまでスキップ)

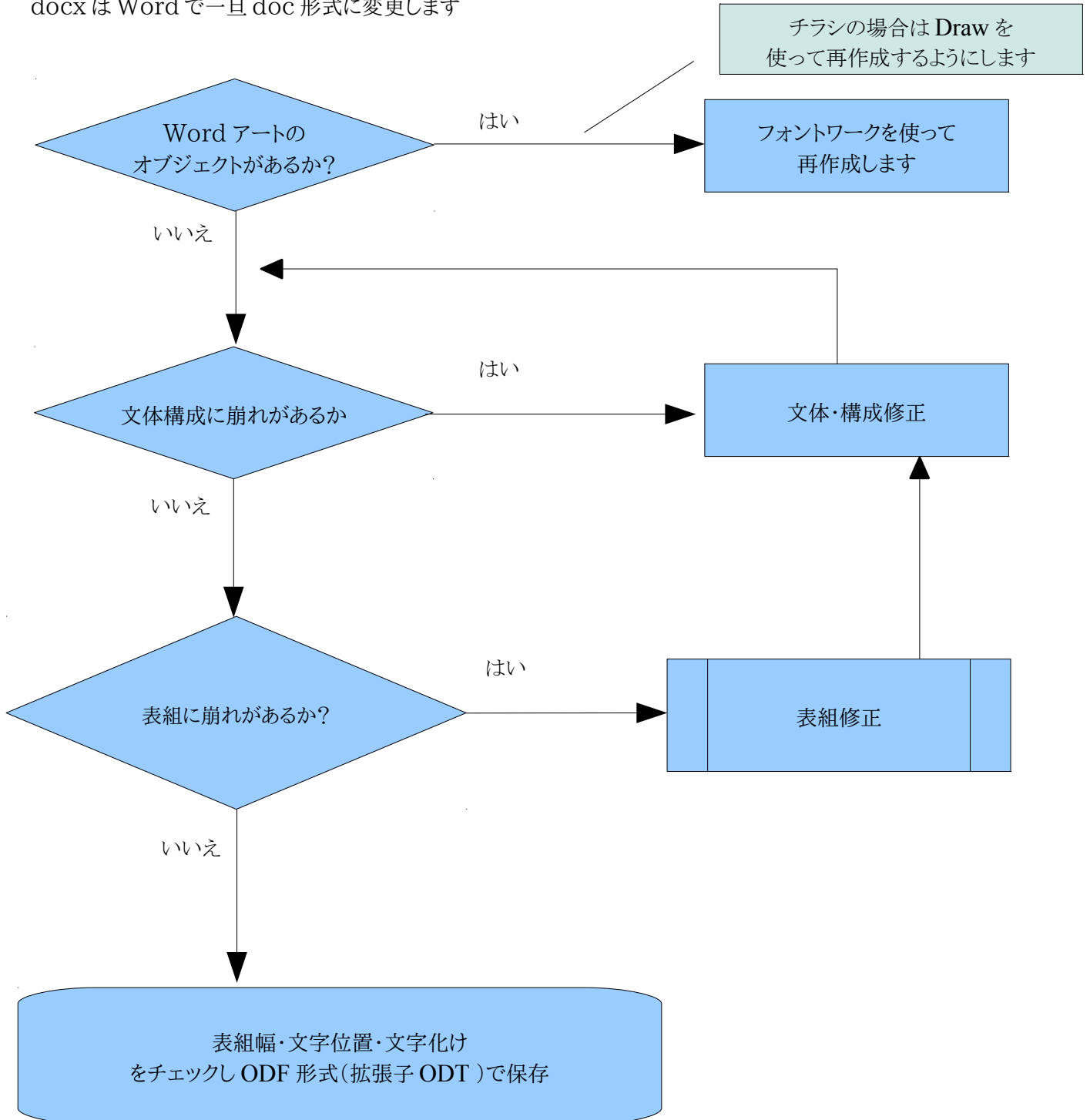


※変換不可能と判断した場合、Ms-Office インストール済 PC での運用ファイルとします

《ファイル変換》

参照:「LibreOffice」利用マニュアル

【Word ファイル編】 Wordのマクロファイルは存在しません
Word ファイル(doc 形式)を Writer で開きます
docx は Word で一旦 doc 形式に変更します



- Word アートなどで作成したオブジェクトを貼り付けているチラシ等は Writer で再作成するよりも Draw で再作成するほうが綺麗に仕上がります、チラシは Draw で再作成しましょう。

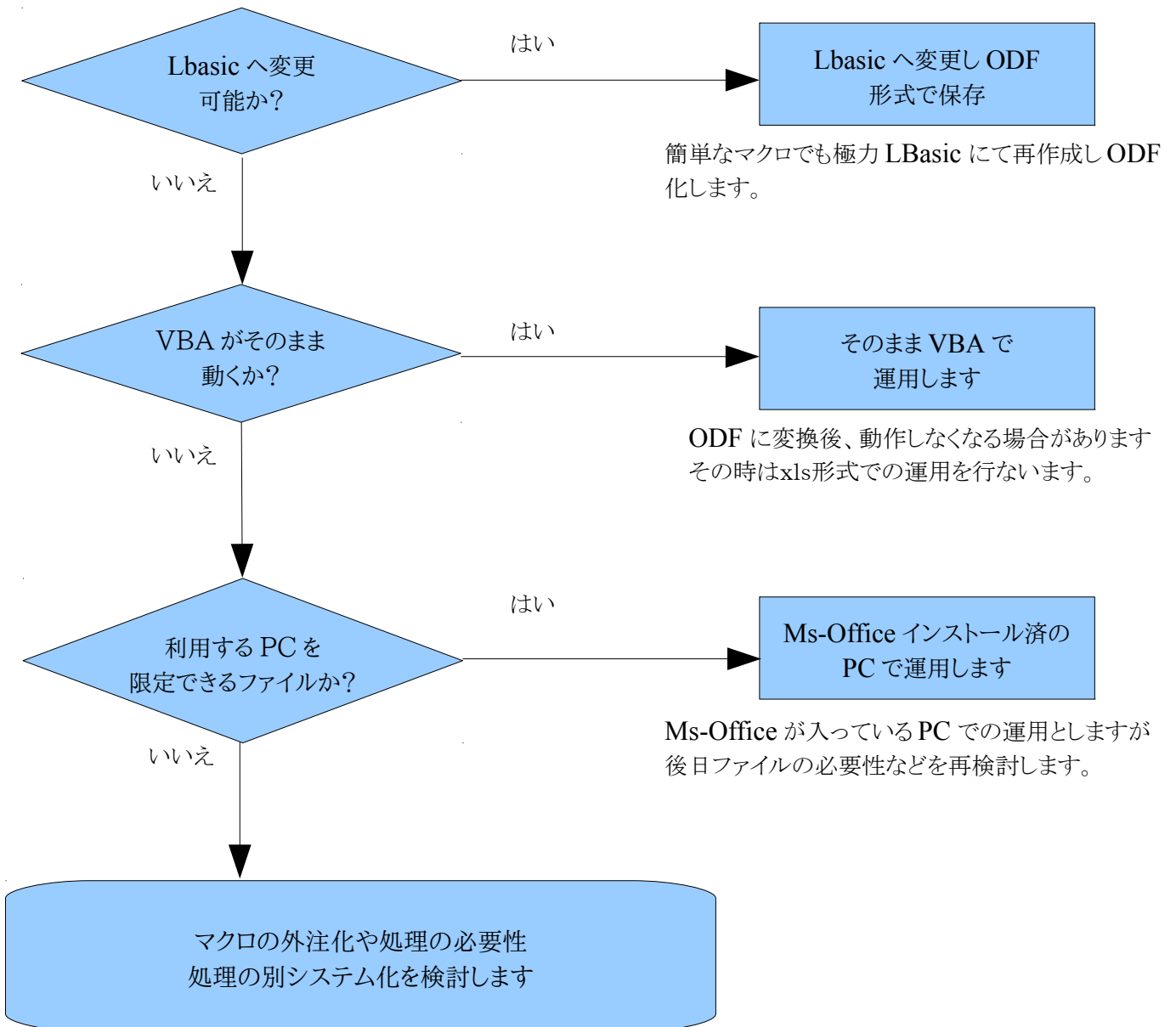
※変換不可能と判断した場合、Ms-Office インストール済 PC での運用ファイルとします

【マクロ有りファイル編】

参照:「ExceltoCalc マクロ移行マニュアル」

Libre_Basic(LBasic)マクロに変更するファイルを絞り込みます

※変更作業前:本当にそのマクロが無ければ業務できないのか?を必ず確認します
ファイル(例:xls)を該当アプリケーション(例:Calc)で開きマクロを有効にします

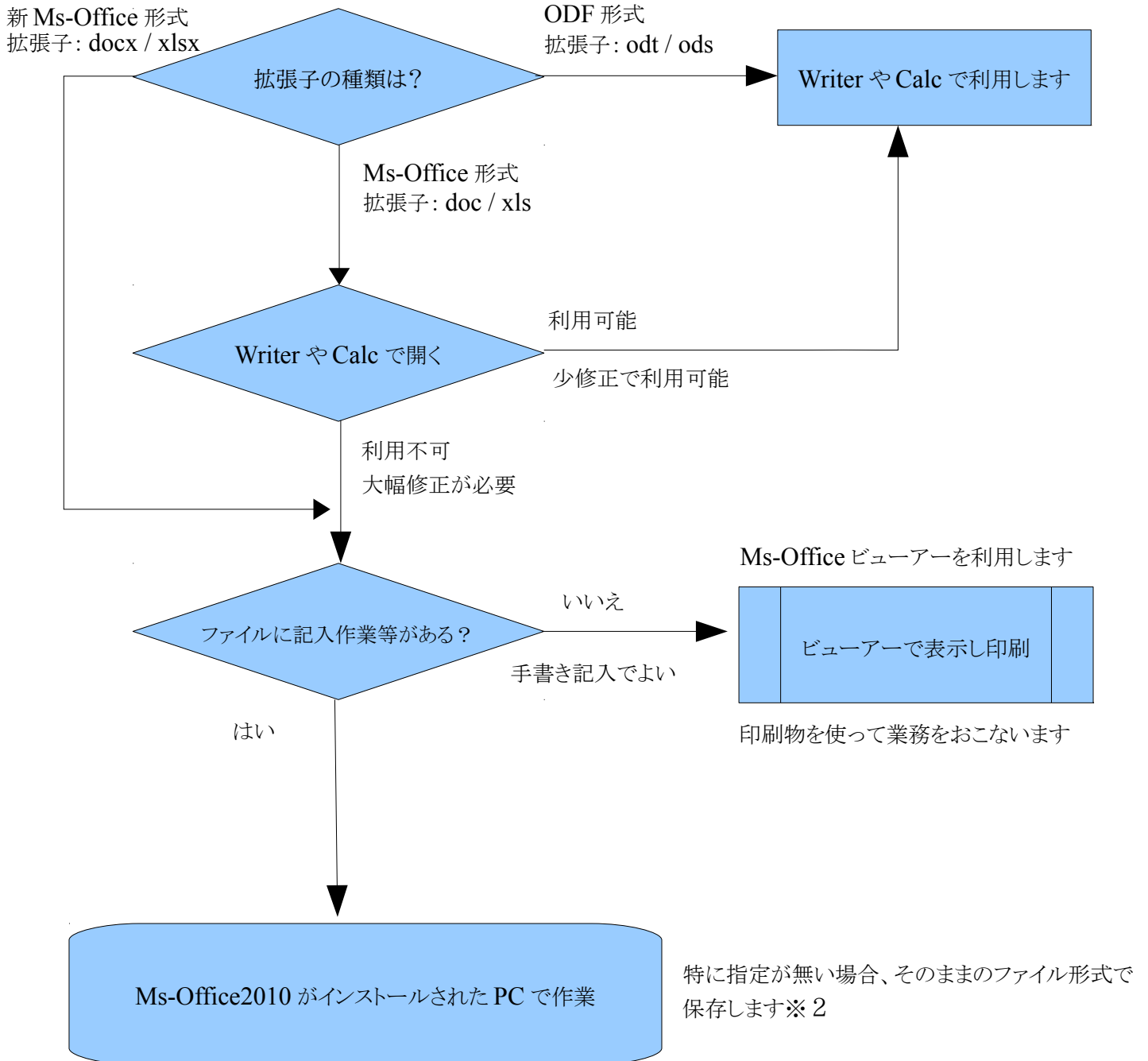


【ワンポイント】

Libreoffice 運用後は、なんでもかんでも Libreoffice で開くようになるので Excel で稼働させたいファイルはフォルダを切り分けたり、命名規約で名前の先頭に Excel ~と入れる等、Excel で運用するファイルだとわかってもらおう等の工夫が必要です。

ファイル利用時の処理フロー
 ファイルの拡張子を見ます

新 Office 形式: 拡張子 docx / xlsx ファイルは互換性が無いので Ms-Office またはビューアーで利用します。



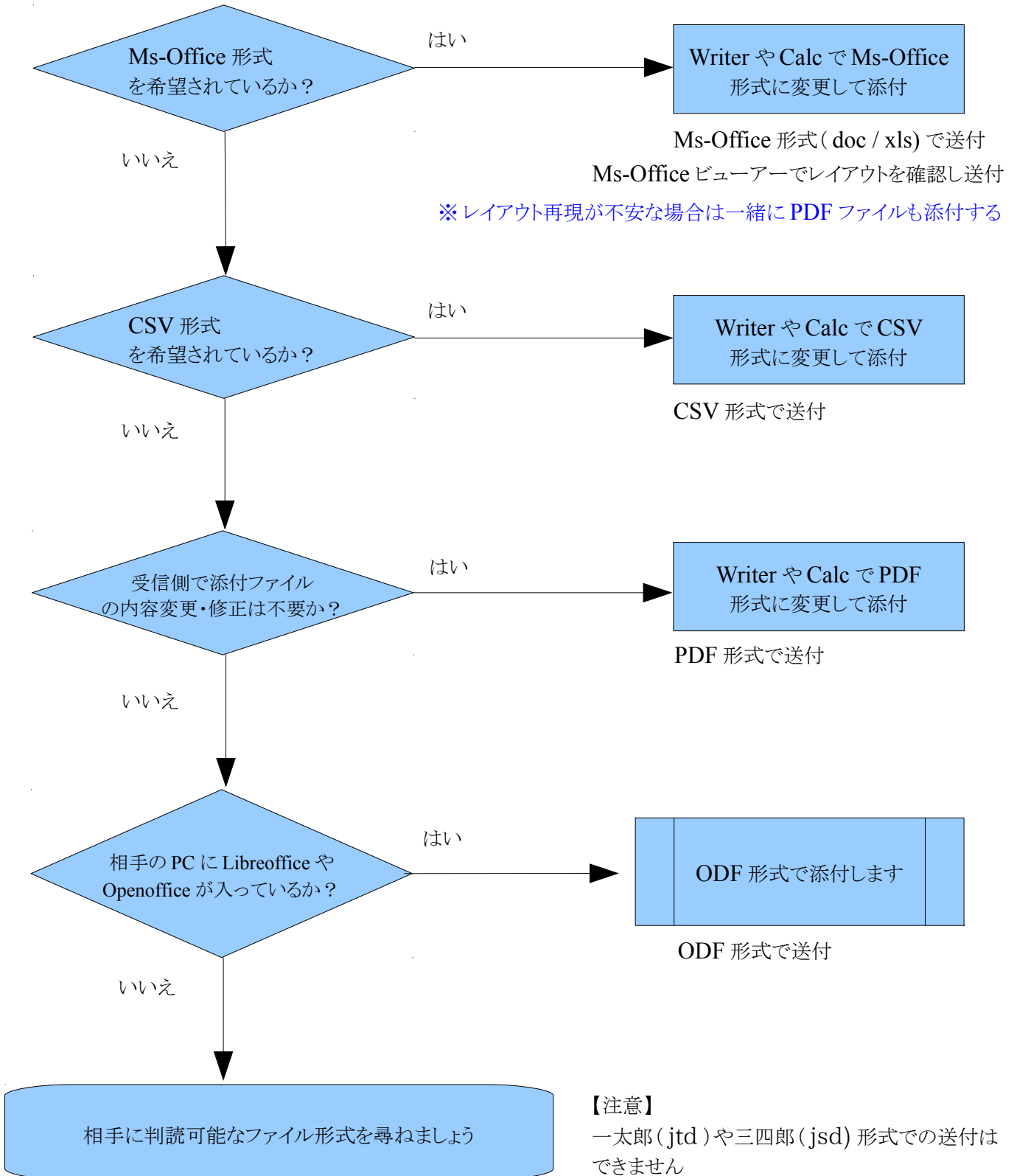
※1: Ms-office 形式ファイルの処理についても可能な限り LibreOffice で行うようにし、印刷した書類で業務を行うファイルについてはビューアーで表示し印刷する方法も利用します。

※2: Office 形式(xls/doc)や Office2010 形式(xlsx/docx)での保存を指定されたファイル(例: Excel・Word 利用を前提に外部が作成したファイル等(自治体などが発行した文書ファイルなど))は必ずそのままの形式で保存します。

ファイル添付時(送付時)の判断フロー Calc/Writer ファイルを添付する場合

受信先からファイル形式を指定されている場合は、指定ファイル形式に変更し添付(送付)します

※新 Office 形式(docx / xlsx)への変更は互換性が無いので行ないません



◎ データ添付の基本◎

ファイル添付の際、加筆修正が不要な資料は PDF 形式、データは CSV 形式で送付することが基本です。

LibreOffice 移行のメリット・デメリット

LibreOffice 移行のメリット

- 標準のファイル形式を国際標準規格 ODF に変更することができる
- 利用者全員が同一バージョンの LibreOffice を利用することができる
- クライアント OS に Windows 以外を選択することができる
- クライアント端末の導入コストを削減することができる

ファイル形式を ODF に変更することには大きく 3 つのメリットがあります

1. ODF 形式は国際標準規格である「オープンドキュメント形式」として登録され文書データの仕様が一般公開されていることから、対応するオフィスソフトを誰でも作成することが可能となっています。また「オープンドキュメント形式」で作成したファイルは LibreOffice だけでなく ODF に対応した色々なオフィスソフトを使って取り扱うことが可能となります。
2. 文書の取り扱いが、特定のソフトに依存することがなくなる為、長期保存されている重要文書を取り扱う際に対応するソフトが無くなって表示できない、という事態を回避することが出来ます。
3. 特定オフィスソフトへの依存度を低下させることができるので、特定オフィスソフトへの高依存化により他へ変更出来なくなってしまう「ベンダーロックイン」と呼ばれる事態を回避することが出来ます。

ファイル形式を ODF に変更することによるデメリットは 1 つだけです

1. 現状では、ファイルを「ODF 形式のまま送付しても再現できない場合が多い」ことがあります、相手が ODF ファイルを正確に読み込み、再現できるソフトウェアを持っていない可能性が高いというものです。

利用者全員が同一バージョンの LibreOffice を利用できるメリットとは？

1. 全員が同バージョンのオフィスソフトで運用できるメリットです。
2. 違うバージョンのオフィスソフトがバラバラに導入されてしまう事態を避けることができます
3. 同一バージョンのソフトを全員同時にインストールすることができます
4. マニュアル作成や画面指示時が同一になるだけでなく、ファイルの互換性についてもメリットとなります。

クライアント OS に Windows 以外を選択できるメリットとは？

1. マルチ言語・マルチ OS 対応の為、導入する PC の OS が Windows である必要がありません。クライアント OS の選択肢が増え適材適所な OS を導入できるだけでなく、クライアントと同様にサーバー OS の選択肢も増えるということです

クライアント端末の導入コストを削減できるメリットとは？

1. クライアント端末台数に比例するオフィスソフト料金削減による導入コスト低減です
2. クライアント端末の OS に Windows 以外という選択が可能となります、オープンソース OS を使ってさらなる導入コスト削減を実現することができます

LibreOffice 移行のデメリット

- ODF ファイルのままでは外部へ渡したファイルが開けない場合が発生する
- Ms-Office で作成したファイルレイアウトが崩れる場合が発生する
- いままで慣れ親しんだ操作方法で作業できなくなる恐れがある
- Ms-Office での処理を義務付けられたファイルが処理できなくなる

ODF ファイルのままでは外部へ渡したファイルが開けない場合が発生する

1. 現時点では ODF 形式に対応したソフトが少ない為、開けない場合が多いのは事実です
その場合、PDF 形式で送付する方法や相手が判読できる形式で再保存し送付する方法があります

Ms-Office で作成したファイルレイアウトが崩れる場合が発生する

1. ファイルレイアウトが崩れ、場合によってはファイルを再作成しなければならないことが発生します
2. マクロがある Excel シートはマクロも再作成するなどの作業が発生します

いままで慣れ親しんだ操作方法で作業できなくなる恐れがある

1. 慣れた操作で作業できないことによる作業効率低下のことです、これは LibreOffice への移行だけではなくソフトウェアを変更する際に必ず発生する事項だと考えています。
Ms-Office2003 から Ms-Office2007 のリボンインターフェースへの変更時にも同様の問題が発生しました。

Ms-Office での処理を義務付けられたファイルの処理ができなくなる

1. Ms-Office での処理を義務付けられたファイルは Ms-Office での処理が必須事項になっています、むやみに LibreOffice で作業することは避けなければなりません。
この場合は処理端末を特定し Ms-Office を個別にインストールする方法や Ms-Office 端末を特定し Ms-Office での作業を集中させる方法などを行います。

■ なぜファイル形式を変更する必要があるのでしょうか？

LibreOffice では xls ファイルや doc ファイルを読み書き可能になっています。

それなのに、なぜファイル形式を ODF 形式へ変更する必要があるのでしょうか？

具体的な理由として ODF 化が必要な事柄は無いのでしょうか？

LibreOffice を利用し実用的な業務活用を行なった場合に xls 形式や doc 形式のままだと作業不能となる事項が存在しているからなのです。 LibreOffice3.44 時点

具体例を示すと

1. doc 形式のファイルを開いて加筆・修正し保存したにもかかわらず、修正が保存反映されない事例が確認されている
2. 差込印刷時の差し込み先文書が doc のままの場合、差込印刷でエラーが発生する場合がある
3. タックシール作成や差し込み印刷等の元データとして xls ファイルを指定できない

ファイルの読み書きが可能となっていることに間違いはなく、看板に偽りはありません。

しかし、実際に LibreOffice を業務利用する場合は、「ファイル形式が ODF であること」が求められることがあるからなのです。

doc とか xls とか ods とか言ってるファイルの拡張子って一体何？

【知識編】

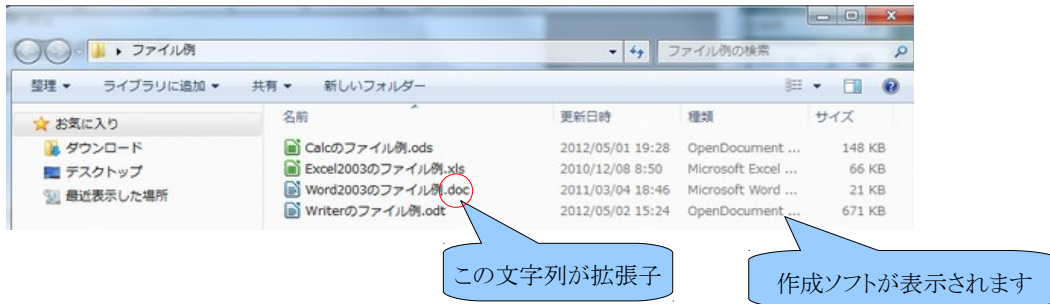
1. 「ファイルの拡張子」って何のこと？

ファイル名のうち、「.」(ピリオド)で区切られた一番右側の部分。

通常、拡張子は、そのファイルの種類を示す 3~4 文字の文字列のことです。

例えば、ファイル名が「ファイル名.doc」ならば「doc」が拡張子になります。

表示例)



2. 「ファイルの拡張子」で何がわかるのですか？

ファイルの種類がわかるので、そのファイルが何のソフトを使って作成されているのかがわかります。

例えば、ファイル名が「ファイル名.doc」の場合、「doc」が拡張子なので Word95-2003 で作成されたとわかります。（ファイル名を名前とすれば、拡張子は苗字とってください）

《代表的な拡張子》

拡張子	作成ソフト	拡張子	作成ソフト
doc	Word95-2003	odt	Writer
xls	Excel95-2003	ods	Calc
ppt	PowerPoint2003	odp	Impress
docx	Word2007-2010	odg	Draw
xlsx	Excel2007-2010	csv	エディタ他、表計算ソフトなど
txt	メモ帳やエディタ類	jpg	デジカメなど
pdf	PDF 作成ソフト		

3. 「拡張子を見て作業する」ってどういうことなのですか？

- 拡張子を見て処理ソフトは「これだ!」と特定すること
- 相手から指定された拡張子の形式に変更すること
- 拡張子を指定することでファイル形式を指定すること

例 1)今のエクセルファイルを PDF に変更してメールで送ってください

これは、「今見ている xls やxlsx 形式のファイルを pdf 形式のファイルに変更してメール送付お願いします」ということになります。

例 2)xlsのファイルを ods に変更して!

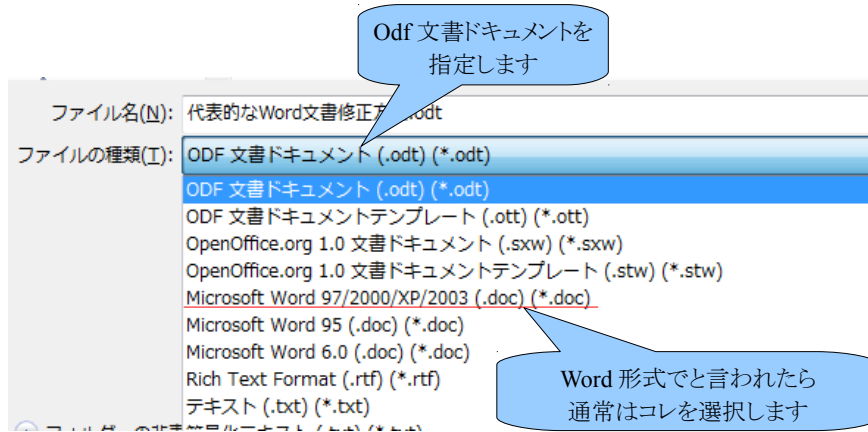
これは、Excel で作られた xls ファイルを Calc で odf 形式のファイルに変換することです。(変換方法は次ページ参照)

4. 「odf形式で保存する」「odf形式のファイルに変える」ってどういうことですか？

ファイルを保存する際に、odf形式(拡張子 odt/ods/odp/odg)を選択して保存を行うことです。

【保存方法】

ファイル(F) → 名前を付けて保存 画面で文書保存ダイアログが表示されたときに保存する形式を指定します。



Microsoft形式で保存する場合の注意点

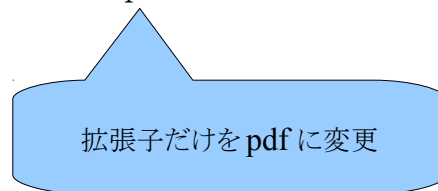
.doc の場合、古い順に Word6.0 形式・Word95 形式・Word97-2003 形式に分かれています
通常は 97-2003 の.doc で保存するようにして大丈夫ですが、先方から 95 形式を指定された場合は Word95 の.doc で保存するようにならなければなりません。(同じ doc でも中身が違うそうです)

5. 拡張子を手で打ちかえればファイル形式って変わるんじゃないの？

ファイル構造自体が違いますから拡張子を手で打ちかえてもファイル形式は変わりません
ファイル形式を変更するときは上記 4 の作業を実施してください

例) このファイルを PDF に変更しました!という件で

ファイル.xls → ファイル.pdf (「PDF が開きません」という問い合わせの原因)



送付先から「PDF ファイルなのに開けないファイルが送られてきた」という問い合わせの原因となった事例

マニュアル紹介

当 JA のホームページで公開している LibreOffice 関連マニュアルです。
作業マニュアルの一つとして御活用いただければ幸いです。

➤ **LibreOffice やオープンドキュメントの説明書です**

- LibreOffice を初めて使う人向けの説明書です
「LibreOffice」およびオープンドキュメントの導入を開始しました

http://www.ja-fukuoka.or.jp/blog/archives/2011/12/libreoffice_1112.php

➤ **移行作業や通常業務で頻繁に使用する操作を調べる時**

- Calc や Writer でのファイル変換や操作方法について、よく利用する機能をまとめています
「LibreOffice 利用マニュアル」を公開しました

http://www.ja-fukuoka.or.jp/blog/archives/2011/12/libreoffice_manual_1112.php

➤ **実務的な作業を「LibreOffice」で行う方法を調べる時**

- Excel や Word で行っていた作業を Calc や Writer で置き換える方法を中心に解説しています
「LibreOffice」活用編マニュアルを公開しました

http://www.ja-fukuoka.or.jp/blog/archives/2012/02/libreoffice_manual_1202.php

➤ **ExcelVBA から Libre_Basic への移行情報を調べる時**

- Excel_VBA から Libre_Basic マクロに乗り換える時の留意点を中心に解説しています
ExceltoCalc マクロ移行マニュアルを公開しました

<http://www.ja-fukuoka.or.jp/blog/archives/2012/05/exceltocalkpdf.php>